

1人1台端末の活用による、日常生活の質を向上させる実践事例

| | | | |
|--|--|--------|-------------|
| 学校名 | 岡山県立東備支援学校 | 指導者名 | 高取 蘭 |
| 実践場面 (教科名) | 教室と特別教室の遠隔学習 (生活単元学習) | 単元・題材名 | 「おうちを作ろう」ほか |
| 学習目標・ ねらい | 安心できる環境で、友達の様子を見聞きしながら活動したり、自分なりに集団に関わったりすることができる。 | | |
| 対象児童生徒 の 実態 | 知的障害部門 小学部 3年 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「何を」「どのくらい」すればよいか明確であれば、取り組めることが多い。作業が終われば砂時計を見ながら待つことができる。 ・普段と異なる場所や集団で活動する事への不安が大きい。 ・不安が強いときには、教室から出ようとしたり、大きな声を出したりすることがある。 ・担任を中心として、安心して一緒に活動できる教員を広げている段階である。 ・本単元では、他学年と合同の活動であったり、教室が変わったりしたこともあり、学習の途中で教室から出て行こうとする姿が多く見られた。 | | |
| 活用の概要 | | | |
| <p>(1) 会議室と3年教室のiPadをMeetで繋ぐ。</p> <p>(2) 会議室では全体の学習を行い、本児は自分の教室で担任と一緒に学習する。</p> <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラーポリを使って家を作り、ままごと遊び等を展開する。 ・本児に対して、タブレット越しに「ピザを作ってください」と依頼する。 ・本児からピザを受け取って、遊びの中に取り入れる。 <p><写真1：会議室でおうち作り><写真2：Google Meetを使用して全体会場から中継></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>【本児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中継を見て様子を感じながら、教室で様々な形に切った色画用紙を貼ってピザを作る。 ・全体会場からの注文を受けて、担任と一緒に「配達」に行く。 ・全体会場の児童にピザを渡して、教室に戻る。 <p style="text-align: right;"><写真3：本児に提示した目標></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p style="text-align: center;"> ぴざ 🍕 を つくって はいたつ しよう </p> </div> | | | |
| 成果や活用の ポイント ・ 課題、改善点 等 | <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本児の状況に応じて、安心できる場所から全体の様子を見たり、よいタイミングで集団と関わりをもつことができた。集団の中にいることが難しいときにも、集団と関わる機会をもつことができた。 ・ALTとの活動の際にも、別室で全体会場と同じ流れで活動することができた。 ・近隣の小学校との交流学习の際にも、別室と中継して活動することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPadの設置場所によっては、他児の気が散ったり、活動の様子がうまく映らなかつたりすることがある。 ・現状では中継による双方向のやりとりは成立しづらい。 ・Wi-Fi環境が不安定で、教室によっては繋がりにくい場合がある。ポケットWi-Fiの活用も検討し、状況を適宜報告し、対策・改善に努める。 ・教員が操作に不慣れなために、スムーズに接続できないことがあり、児童の意欲を保ちにくかつたり、活動の進行が滞ったりすることがある。授業内外でも積極的に活用して慣れていくことが必要である。 | | |